

令和8年度徳島大学病院臨床研修歯科医師募集要項

研修目的（目標）

患者中心の全人的医療を理解し、医療人に求められる資質・能力をかん養するとともに、患者に安心・安全な歯科医療を提供するための基本的臨床能力を身につけることを目標とする。

研修プログラムの名称

徳島大学病院管理型・複合型歯科医師臨床研修プログラム

臨床研修管理委員会

徳島大学病院歯科医師臨床研修管理委員会

研修実施責任者

徳島大学病院卒後臨床研修センター 副センター長 北村 直也

研修歯科医の募集定員：58名

管理型：45名、複合型：13名

研修期間：1年間

令和8年4月1日から令和9年3月31日までの1年間

研修歯科医の処遇

大学病院での研修期間

1. 身分：非常勤職員（医員（研修医））
2. 給与：基本給 日給9,575円
3. 宿舎：院内職員宿舎
4. 保険：文部科学省共済組合（短期）、厚生年金および雇用保険
5. 勤務時間：1日7時間45分勤務（午前8時30分～午後5時15分）
6. 休日：毎週土・日曜日、国民の祝日、年末・年始（12月29日から1月3日まで）
7. 有給休暇：10日（採用日から5日付与、継続勤務6ヶ月後にさらに5日付与）
8. 歯科医師賠償責任保険：大学病院で損害賠償責任保険に加入

協力型（Ⅰ）臨床研修施設での研修期間

各協力型（Ⅰ）臨床研修施設での規定による。

注）研修期間は、採用された病院以外での給与の取得を禁ずる。（アルバイトの禁止）

施設・設備

- 1）管理型研修施設
 - （1）臨床研修は、本院外来診療棟4階で主に行う。
 - （2）ローテイト科の研修および専門診療科研修は、当該診療科において行う。
- 2）協力型（Ⅰ）臨床研修施設
 - 94施設（予定）
- 3）協力型（Ⅱ）臨床研修施設
 - 4施設（予定）

応募資格

令和7年度（令和8年3月）歯科大学・歯学部卒業見込み者または歯科大学・歯学部既卒者で、今年度歯科医師国家試験を受験する者。

選考会場・選考方法等

本学における研修希望者の採用は、全国マッチングを通して行う。

(1) 選 考 日：令和7年8月18日(月)

(2) 会 場：徳島大学病院外来診療棟5階

(日時を含めて詳細は、本人に通知する。)

(3) 選考方法：小論文・面接試験により、総合的に判定する。

・午前：小論文

・午後：面接試験

注) Cプログラムを希望する場合には、予め希望するコースの診療科長との面接が必要。

(4) そ の 他：マッチング定員に達しない場合には、個別募集を行うこともある。

出願書類等

出願は郵送に限る。

郵送にあたっては、下記の書類を一括して封筒に入れ、『書留郵便』で送付すること。

令和7年8月18日(月)の選考試験を受験できない場合はその旨を受験できない理由と併せて臨床研修願の備考欄に記載すること。

(1) 臨床研修願(所定の書式を <https://www.tokushima-hosp.jp/>よりダウンロード)

(2) 履歴書(所定の書式を <https://www.tokushima-hosp.jp/>よりダウンロード)

(3) 卒業(見込み)証明書

(4) 成績証明書

(5) 返信用封筒(110円切手を貼り付けること)

注) 選考試験3日前までに受験票が届かない場合、至急、下記問い合わせ先まで連絡すること

出願期間

令和7年6月11日(水)～ 7月28日(月) 17時00分必着

出願書類提出先

〒770-8503 徳島市蔵本町2丁目50番地の1
徳島大学法人運営部人事課蔵本人事係
TEL：088-633-7018

問い合わせ先

〒770-8503 徳島市蔵本町2丁目50番地の1
徳島大学病院卒後臨床研修センター
TEL：088-633-9359
FAX：088-633-9358
E-mail：bsotsugo@tokushima-u.ac.jp
URL：<https://www.tokushima-hosp.jp/>

【研修プログラムの概要】

研修目標

患者中心の全人的医療を理解し、医療人に求められる資質・能力をかん養するとともに、患者に安心・安全な歯科医療を提供するための基本的臨床能力を身につけることを目標とする。

また、Cプログラムでは、将来の大学院進学や専門医取得を目視し、総合診療に加え、専門領域の研修を行い、より高度な診察能力の修得に努める。

研修プログラムの特徴

本学のA、Bプログラムは、大学病院と日常臨床で頻繁に遭遇する症例の豊富な臨床研修施設群からなる施設で、小児から成人、高齢者の各年代層に対応したプライマリケアをはじめとした基本的な歯科診療能力をより効率的に修得できるように企画している。

卒前臨床実習で学んだ態度、知識、技術を踏まえ、患者中心の良質で、適切な歯科医療を提供し得る歯科医師の生涯研修の第1歩として、全ての歯科医師に求められる高い倫理観ならびに基本的な臨床能力を身につけることを目指している。

そのため、1年間の限られた期間内で一口腔単位の総合診療が単独で行えるように、指導歯科医が1年間を通じて研修歯科医一人一人に治療計画の立案から経過観察まで指導する体制をとっている。また、幅広い基本的な最新の歯科医学の知識を得るために専門診療科の垣根を取り払ったセミナーを行っている。

これらに加えてA、Cプログラムでは協力型（Ⅱ）施設での訪問診療に参加することにより地域医療研修の充実をはかることとしている。

さらにCプログラムは、専門歯科診療を主体とし、一部総合歯科診療を組み入れ、2年目以降の大学院進学や専門医をめざした研修で、高度で先進的な歯科医療が実践できる専門医としての基盤を身につけることを目指している。

研修方法

研修方法	プログラム	研修場所	募集定員 (人)
管理型	Aプログラム	徳島大学病院＋協力型（Ⅱ）	40
	Cプログラム	徳島大学病院＋協力型（Ⅱ）	5
複合型	B-1プログラム（短期）	徳島大学病院＋協力型（Ⅰ）（短期）	3
	B-2プログラム（長期）	徳島大学病院＋協力型（Ⅰ）（長期）	10

1. Aプログラム（管理型）：
一年間を通じて徳島大学病院で研修する。総合診療を基本に専門診療科のローテイト研修を取り入れた研修を行い、生涯研修の足がかりとする。

2. Bプログラム（複合型）：
高頻度疾患を数多く経験し、大学病院では経験困難な地域医療や在宅診療などの経験を協力型（Ⅰ）臨床研修施設でつみ、地域社会での口腔保健の指導者となる足がかりとする。

B-1プログラム（短期）：徳島大学病院で基本的診療技術を修練し、6ヶ月間協力型（Ⅰ）臨床研修施設で地域歯科医療を実践する。

B-2プログラム（長期）：8ヶ月間協力型（Ⅰ）臨床研修施設で地域歯科医療を修練し、徳島大学病院では、医療安全、全身管理などを中心に研修を行う。

3. Cプログラム（管理型）：
1年を通じて徳島大学病院の専門外来での専門的な診療を基本に、総合歯科診療、ローテイト研修を取り入れた研修を行い、将来の大学院進学や専門研修の足がかりとする。

研修体制

- 1) 総合臨床研修は、主に総合歯科診療部または保存科・補綴科で、患者個々の一口腔単位の治療計画を立案し、その計画に基づき治療を行う。専門学会の認定医、専門医または指導医を持つ指導歯科医が中心となって研修歯科医を指導する。
- 2) ローテイト研修は、定められた日程により、総合歯科診療部、口腔外科、口腔内科、歯科麻酔科、歯科放射線科、口腔保健センター、県立中央病院において研修を行う。当該診療科の科長、部長が選任した研修主任および指導歯科医が指導する。
- 3) 専門診療科研修は、当該診療科において、外来患者を担当し、専門診療科の研修主任が中心となって研修歯科医を指導する。

研修の評価

- 1) 臨床研修の到達目標 A・B を全て修得できていること。
臨床研修の到達目標は「徳島大学病院歯科医師臨床研修プログラム」による。
- 2) 臨床研修の到達目標 C を概ね修得できていること
- 3) 大学病院が企画した講習会および卒後臨床研修センターが企画した臨床セミナーの出席状況。
- 4) 医療法に基づく講習会への出席状況。
- 5) 研修手帳の記載状況。
- 6) 症例報告会の報告内容の評価および症例報告書の提出。
- 7) 技能試験の合格。
- 8) 研修中の態度、および研修歯科医の適正の評価。

1) ～ 8) の総合評価に基づき、研修主任会議で予備判定を行った後、研修管理委員会で修了を認定し、病院長が研修歯科医に修了証を発行し、厚生労働省に登録する。

臨床研修プログラム（例）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
管理型 (A・C)	総合臨床研修＋ローテイト研修＋協力型(Ⅱ)臨床研修施設(5日)											
複合型 B－1	総合臨床研修＋ローテイト研修						協力型(Ⅰ)臨床研修施設 (6ヵ月)					
複合型 B－2	総合臨床研修＋ローテイト研修				協力型(Ⅰ)臨床研修施設 (8ヵ月)							

【共通プログラム】

- オリエンテーション（4月）
- 全身管理研修：医療安全・全身管理の研修を行う。
 1. 歯科麻酔研修：1週間ローテーションを組み行う。
 2. 救急処置研修：半日間行う。

【各プログラム】

1. Aプログラム（40名）

①総合歯科コース

総合歯科診療部での臨床研修に加え、歯科麻酔科および歯科放射線科でローテイト研修を行い、一般的歯科診療についての広範囲な歯科治療の基本を習得する。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
研修 (研修場 所)	予備 研修	総合歯科診療部										

ローテイト科：歯科麻酔科，歯科放射線科

歯科麻酔科では1週間固定で全身管理研修を行う。

周術期口腔ケア研修および学校歯科健診を研修協力施設で行う。

②病院歯科コース

予備研修修了後、5月から口腔外科、口腔内科、歯科麻酔科または歯科放射線科から1専門外来を選択し、そこで5ヶ月間研修を行い、その後、総合歯科診療部で総合治療計画に基づいた総合歯科診療を行い、包括的歯科医療の基本を習得し、将来の専門医取得の足がかりとする。

例)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
研修 (研修場 所)	予備 研修	専門外来（口腔内科、口腔外科、 歯科麻酔科、歯科放射線科）					総合歯科診療部					

研修の順序は変更する場合がある。

ローテイト科：歯科麻酔科，歯科放射線科

歯科麻酔科では1週間固定で全身管理研修を行う。

周術期口腔ケア研修および学校歯科健診を研修協力施設で行う。

③発達・育成歯科コース

予備研修修了後、6ヶ月間総合歯科診療部で総合治療計画に基づいた総合歯科診療を習得した後、矯正歯科または小児歯科で発達・育成歯科を中心とする包括的歯科医療の基本を習得し、将来の専門医取得の足がかりとする。

例)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
研修 (研修場 所)	予備 研修	総合歯科診療部						専門外来（矯正歯科、小児歯科）				

ローテイト科：歯科麻酔科，歯科放射線科

歯科麻酔科では1週間固定で全身管理研修を行う。

周術期口腔ケア研修および学校歯科健診を研修協力施設で行う。

④保存・補綴コース

予備研修修了後、保存科または補綴科を5ヶ月または6ヶ月でローテイトし、大学病院で経験できる高頻度治療研修を中心に行う。

例)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
研修 (研修場 所)	予備 研修	保存研修または補綴研修 (歯科診療室)						補綴研修または保存研修 (歯科診療室)				

ローテイト科：歯科麻酔科，歯科放射線科

歯科麻酔科では1週間固定で全身管理研修を行う。
 周術期口腔ケア研修および学校歯科健診を研修協力施設で行う。

⑤保存・補綴・口腔外科コース

予備研修修了後、保存科・補綴科でそれぞれ4ヵ月間、口腔外科で3ヵ月間研修を行い、保存、補綴、口腔外科の基本技能を短期間で集中的に習得する。

例)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
研修 (研修場 所)	予備 研修	保存研修 (歯科診療室)				補綴研修 (歯科診療室)				口腔外科研修 (口腔外科診療 室)		
研修 (研修場 所)	予備 研修	補綴研修 (歯科診療室)				保存研修 (歯科診療室)				口腔外科研修 (口腔外科診療 室)		

ローテイト科：歯科麻酔科，歯科放射線科

歯科麻酔科では1週間固定で全身管理研修を行う。
 周術期口腔ケア研修および学校歯科健診を研修協力施設で行う。

2. Bプログラム（13名）＊

①B－1プログラム（地域歯科医療初期プログラム）（3名）

管理型での研修（Aプログラムの総合歯科プログラムに準ずる）に、6ヶ月の協力型（I）臨床研修施設での研修を加え、頻度の高い歯科治療を多数行うとともに、歯科医師の社会的な役割を理解する。

②B－2プログラム（地域歯科医療プログラム）（10名）

8ヶ月の協力型（I）臨床研修施設で地域医療に密着した研修、在宅診療の研修を行い、地域歯科医療を担う歯科医師の役割を理解する。大学病院では、全身管理（歯科麻酔科）、安全管理研修を中心に、歯科放射線科でローテイト研修を、周術期口腔ケア研修および学校歯科健診を研修協力施設で行う。

＊原則、協力型（I）臨床研修施設での研修は、1施設1名までとする。

3. Cプログラム（5名）＊

①歯科保存学コース（研修責任者：保坂 啓一 診療科長）

11ヵ月で、歯科保存分野における診断や治療法、救急処置、予後判定などを研修し、これらの能力を身につける。治療内容として、象牙質知覚過敏処置、保存修復（コンポジットレジン修復、グラスアイオノマー修復、インレー修復など）、歯内治療（覆髄、抜髄、感染根管治療、歯内外科処置など）、そして歯周治療を行う。なお、簡単な抜歯等の口腔外科分野の処置や簡単な補綴処置なども行う。

②歯周病専門コース（研修責任者：湯本 浩通 診療科長）

歯周治療の研修内容を増やして専門性を高めることを特徴にする。すなわち、歯周外科手術が必要となるような中程度以上の歯周炎患者に対して、一口腔単位で外科治療、補綴治療を含めて治療を行い、研修歯科医が自ら治療を完結できるような実力を養うための研修を行う。保存以外の補綴および口腔外科等に関する研修（評価）については、基本的には「保存・補綴コース」に準じ、補綴科、口腔外科（口

腔内科)、総合歯科などと連携しながら、研修を実施する。

③高度口腔機能・審美回復研修コース（研修責任者：渡邊 恵 診療科長）

一般の研修歯科医に求められる基本事項を踏まえ、欠損歯列に対する高いレベルでの口腔機能・審美回復を近い将来に実施できるようになるために必要な知識、態度および技能を習得する。欠損歯列に対する高いレベルでの補綴歯科治療や、要介護、後期高齢者など様々なリスクの高い患者の補綴歯科治療、ケアを体験すると同時に、座学、セミナー、実習などを通してこのような機能回復・ケアを行うために必要な情報を集め、分析する能力を養う。

④かみあわせ補綴科コース（研修責任者：松香 芳三 診療科長）

かみあわせ補綴科外来を中心に眼前の患者に対する治療計画の立案から経過観察まで行うことにより、一口腔単位の総合診療が単独で行うことができるように研修する。日本補綴歯科学会指導医の資格を有する卒後臨床研修指導歯科医が一般歯科診療の習得とともに、専門性の高い補綴歯科治療に関しても研修する。患者治療を通して総合歯科、口腔外科あるいは保存科などの指導歯科医と協力して指導にあたり、包括的歯科診療を習得する。

⑤口腔内科持続研修コース（研修責任者：青田 桂子 診療科長）

口腔内科外来研修は、白板症などの前癌病変から扁平上皮癌に至る口腔粘膜疾患をはじめ、炎症性疾患、シェーグレン症候群などの自己免疫疾患、口腔乾燥症、舌痛症などの疾患治療の臨床研修に加えて、拔牙、嚢胞摘出術などの外来外科手術の研修を行う。また、口腔内科病棟における入院患者管理および医科入院患者に対する口腔ケアや周術期口腔機能管理などを通じて医・歯連携の研修を実践する。

⑥口腔外科研修コース（研修責任者：栗尾 奈愛 診療科長）

臨床歯科医として必要な基本的な歯科診療能力を習得するとともに、専門分野である口腔外科の種々の疾患に対して、的確な診断と治療が行える能力を習得するコースである。

顎口腔領域の炎症、外傷、嚢胞、腫瘍、顎関節疾患、顎変形症、インプラントなどの口腔外科疾患患者を担当し、その診断と治療の知識と手技を習得する。また、入院患者を担当し、患者の全身状態を正しく評価・把握し、安全に治療を行なうための全身管理を習得する。

⑦矯正歯科コース（研修責任者：田中 栄二 診療科長）

矯正歯科診療、とりわけ、成長期の患者の矯正治療に関する知識と臨床技術の習得を達成目標とする。週4日、特定の指導歯科医のもと、矯正診断見学、診療見学を行うとともに、新患の診断資料採得、資料分析を自ら実施する技術を修得する。矯正歯科における専門外来（口蓋裂外来、顎関節外来、顎変形症外来）への参加、矯正歯科主催の講演会、講習会へ参加し、広く矯正歯科に関する知識等を身につける。週1日は、総合歯科において、一般歯科診療技術の習得を行う。

⑧小児歯科コース（研修責任者：岩崎 智憲 診療科長）

小児の成長発育を学び、そこから乳歯・幼若永久歯の齲蝕予防並びに齲蝕治療の

考え方および実際の治療法を習得する。また、小児期の外傷歯に対する治療法および対応法を習得する。また、地域との連携に関する概念を学ぶ。さらに総合歯科との連携を図り一般歯科診療を習得する。関連各科（歯科麻酔科、歯科放射線科、口腔外科）との連携を図り、小児歯科医師として求められる最低限の知識、技術の習得訓練を行い、最終的には専門医習得の足がかりとする。

⑨歯科麻酔科/全身管理コース（研修責任者：川人 伸次 診療科長）

本コースは、歯科治療や手術患者の全身麻酔、精神鎮静法およびモニター管理などの歯科麻酔における臨床技術を身につけるとともに、患者の全身管理に関する基本的な知識を得ることを目標とする。歯科麻酔外来および手術室を中心に研修を行い、最初の3か月間は総合歯科において一般歯科診療を習得する。小児から多くの合併症を有する高齢者まで対応した基本的な全身管理を効率的に学び、診断学、臨床検査医学を含む幅広い医学的知識を習得する。

*C プログラムをマッチングで登録する場合には、予め当該コースの研修責任者と必ず相談すること。

*C プログラム共通ローテイト科：歯科麻酔科、歯科放射線科

歯科麻酔科では1週間固定で全身管理研修を行う。

周術期口腔ケア研修および学校歯科健診を研修協力施設で行う。

研修終了後の進路等について

本院では、1年間の臨床研修終了後、すべての研修歯科医は2年目以降において各人が希望する診療科・診療部および大学院各分野の長と協議の上、つぎのコースを選択することが可能である。

1) 大学院進学コース

基礎歯科医学、臨床歯科医学を学ぶコース

2) 臨床研修後期研修プログラムコース（10名）

本学歯科診療部門の各診療科・診療部において、一般歯科臨床医として知識・技能を高め、さらに高度な認定医、専門医、指導歯科医を目指すコース

本コースは1年間であり、その後、医員として採用されることがある。

令和8年度徳島大学病院臨床研修歯科医師募集日程

令和7年

6月11日（水）14時：マッチング参加登録開始（参加者、参加施設）

6月11日（水）～7月28日（月）：出願期間

7月18日（金）13時：令和8年度プログラム説明会・病院見学会
（会場：外来診療棟5階 日亜ホール Blue,
病院見学担当：第一補綴科、口腔外科）

7月30日（水）14時：マッチング参加登録締切（参加者、参加施設）

8月18日（月）10時30分：採用試験（小論文・面接）

9月10日（水）14時：希望順位表登録（登録修正含む）開始
（参加者、参加施設）

10月8日（水）14時：希望順位表登録（修正登録含む）締切
（参加者、参加施設）

10月22日（水）14時：マッチング協議会によるマッチング結果発表
（参加者、参加施設）

令和 年 月 日

注1. 太枠への記入は要りません。
注2. 連絡方法、連絡先等で指定がある場合など、その他事項は備考欄に記入して下さい。
注3. この登録願書は、履歴書、返信用封筒を同封して下さい。
注4. Cプログラムを希望する場合には、予め希望するコースの診療科長との面接が必要。
*受験票返信用封筒：定形封筒長3(12×23.5cm)に出願者本人の宛名を記入し、110円切手を貼り付けたもの。
郵送する場合は、提出書類を一括して封筒に入れ、表面に「研修歯科医応募書類在中」と朱書きし、必ず簡易書留にて送ること。

〒770-8503 徳島市蔵本町2丁目50番地の1
徳島大学法人運営部人事課蔵本人事係
TEL: 088-633-7018

履歷書

年 月 日現在

ふりがな				
氏名				
				印
昭和 平成	年	月	日生（満 才）	※ 男・女

4 × 3
上半身脱帽・3ヶ月以内に撮影したものを貼付

[illegible]

クラブ活動・文化活動・ボランティアについて（活動期間等を詳しく）								
<table border="0"><tr><td>（例）</td><td>クラブ</td><td>期間</td><td>クラブ等での役割</td></tr><tr><td></td><td>サッカー部</td><td>（1-6 年）</td><td>プレイヤー、マネージャー（4-5 年）</td></tr></table>	（例）	クラブ	期間	クラブ等での役割		サッカー部	（1-6 年）	プレイヤー、マネージャー（4-5 年）
（例）	クラブ	期間	クラブ等での役割					
	サッカー部	（1-6 年）	プレイヤー、マネージャー（4-5 年）					

希望診療科、興味のある分野
将来の進路の希望
志望動機

自己 PR

健康状態